

CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版Ver

大幸薬品京都工場

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年追補

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010bpi&bei(v

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.0
Q1 室内環境			0.32			3.1
1 音環境		3.0	0.15			3.0
1.1 騒音		3.0	0.40			
1 室内騒音レベル		3.0	1.00			
1.2 遮音		3.0	0.40			
1 開口部遮音性能		3.0	0.60			
2 界壁遮音性能		3.0	0.40			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						
1.3 吸音		3.0	0.20			
2 温熱環境		3.1	0.35			3.1
2.1 室温制御		3.3	0.50			
1 室温		3.0	0.38			
3 外皮性能	負荷に応じて細かなゾーンニング、かつエリアによって冷暖同時を	3.0	0.25			
4 ゾーン別制御性		4.0	0.38			
2.2 湿度制御		3.0	0.20			
2.3 空調方式		3.0	0.30			
3 光・視環境		3.0	0.25			3.0
3.1 昼光利用		3.0	0.30			
1 昼光率		3.0	0.60			
2 方位別開口						
3 昼光利用設備		3.0	0.40			
3.2 グレア対策		3.0	0.30			
2 昼光制御		3.0	1.00			
3.3 照度		3.0	0.15			
3.4 照明制御		3.0	0.25			
4 空気質環境		3.1	0.25			3.1
4.1 発生源対策		3.0	0.50			
1 化学汚染物質		3.0	1.00			
4.2 換気		3.5	0.30			
1 換気量		3.0	0.50			
2 自然換気性能						
3 取り入れ外気への配慮	外気取入口は周囲の状況に考慮し、さらに各排気口から6m以上離	4.0	0.50			
4.3 運用管理		3.0	0.20			
1 CO ₂ の監視						
2 喫煙の制御		3.0	1.00			
Q2 サービス性能		-	0.30			3.2
1 機能性		2.9	0.40			2.9
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40			
1 広さ・収納性		3.0	0.50			
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.50			
3 バリアフリー計画						
1.2 心理性・快適性		2.3	0.30			
1 広さ感・景観		3.0	0.33			
2 リフレッシュスペース		1.0	0.33			
3 内装計画		3.0	0.33			
1.3 維持管理		3.5	0.30			
1 維持管理に配慮した設計	清掃性のいい材料を選定	4.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50			
2 耐用性・信頼性		3.0	0.31			3.0
2.1 耐震・免震		3.0	0.48			
1 耐震性		3.0	0.80			
2 免震・制振性能		3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.33			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23			

2.4 信頼性			3.2	0.19			
1	空調・換気設備		3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備	便器など節水器具を採用し、配管の系統はエリア毎に区分	4.0	0.20			
3	電気設備		3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20			
5	通信・情報設備		3.0	0.20			
3 対応性・更新性			3.7	0.29			3.7
3.1 空間のゆとり			5.0	0.31			
1	階高のゆとり	階高を最低4.5m確保	5.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ	将来変更対応な空間構成	5.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31			
3.3 設備の更新性			3.4	0.38			
1	空調配管の更新性		3.0	0.17			
2	給排水管の更新性		3.0	0.17			
3	電気配線の更新性		3.0	0.11			
4	通信配線の更新性		3.0	0.11			
5	設備機器の更新性	設備機器の更新に対応した、搬出入ルート・マシンハッチ寸法を確	5.0	0.22			
6	バックアップスペース		3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.38	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30			3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30			2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性							3.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.2
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.06			3.0
2 自然エネルギー利用			3.5	0.27			3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50			
2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光発電設備を導入	4.0	0.50			
3 設備システムの高効率化			3.2	0.40			3.2
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		ERR=3.3%	3.2				
集合住宅の評価							
4 効率的運用			3.0	0.27			3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50			
4.2	運用管理体制		3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.4	0.15			3.4
1.1	節水	撥音装置、節水型便器を採用	4.0	0.40			
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67			
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減			2.9	0.63			2.9
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07			
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20			
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20			
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22			3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32			
3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.68			
1	消火剤		-	-			
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50			
3	冷媒		3.0	0.50			
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.8
1 地球温暖化への配慮			3.0	0.33			3.0
2 地域環境への配慮			2.5	0.33			2.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25			
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25			
3	交通負荷抑制		3.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25			
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33			3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40			
1	騒音		3.0	0.33			
2	振動		3.0	0.33			
3	悪臭		3.0	0.33			
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40			
1	風害の抑制		3.0	0.70			
2	砂塵の抑制						
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30			
3.3 光害の抑制			3.0	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70			
2	陽光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30			